

平成 29 年度 ドイツ・ザールラント州交流派遣プログラム 研修報告

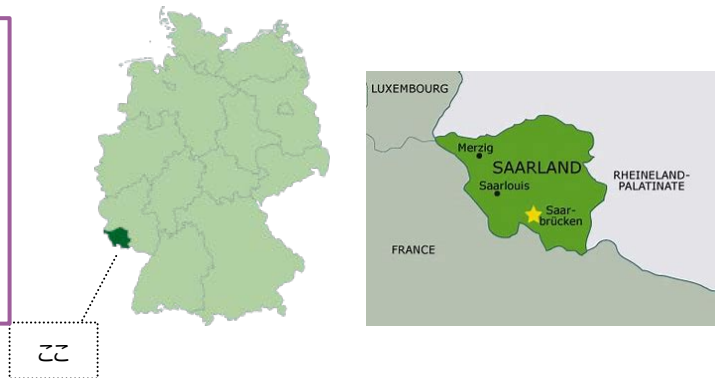
実施主体：大阪府立岸和田高等学校

実施期間：2018年3月15日(木)～2018年3月21日(水)

訪問先：ドイツ連邦共和国ザールラント州

参加生徒：2年生7名・1年生3名

付添：本校教員2名



ドイツ・ザールラント州について

ドイツの西南部に位置しており、南はフランスのロレーヌ地方に、西端はルクセンブルクに接する。フランス文化の影響を濃厚に残している地域もあり、フランス語を日常会話としている者もいる。フェルクリンゲンの製鉄所跡は、ユネスコの世界遺産に登録されている。

研修の目的

- ・日本とは異なる「国」「国境」などの実情を体感することで、グローバルリーダーとして必要な国際感覚を身に付ける。
- ・現地の人々と交流し、大阪・日本についてプレゼンテーションを行うことで相互理解を深め、また自分自身を客観的に見つめる機会を持つ。
- ・現地でのコミュニケーションを通じて、英語での自己発信力を高める。

事前研修・準備会 6回

- 1/19 研修の目的・目標の明確化
- 1/25 ドイツ及びザールラント州概要について（講師：在大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館広報担当者）
- 2/2 ホームステイ英会話・日本のことを英語で紹介する（講師：英語ネイティブ講師）
- 2/8 ドイツ語講座、現地でのプレゼンテーション準備①
- 2/15 現地でのプレゼンテーション準備②
- 3/2 最終事前説明会、決意表明、プレ発表（プレゼン＆合唱）



派遣研修

1日目：3月15日(木)

- 8：30 関西空港集合・出発（ルフトハンザ直行便）
- 15：00 フランクフルト国際空港着（ここから現地時間）
- 18：00 ザールラント州到着 ホストファミリーと面会・各家庭へ

2日目：3月16日(金)

- AM 各ホスト校訪問（計9校）ドイツの高校生活を体験（数学・英語・フランス語・プレゼンなどの授業に参加）
- 17：00 ローテンビュール・ギムナジウム（取りまとめ校）にて歓迎会（ザールラント州政府教育省・ザールラント大学・在フランクフルト日本総領事館関係者）
生徒による挨拶・合唱の披露（岸和田高校校歌・歓喜の歌）



英語でのプレゼン

「歓喜の歌」合唱

@歓迎会

3日目：3月17日(土)

AM ザールラント大学にて日本語クラスの高校生と交流

生徒による英語プレゼンテーション『岸高生の1日と1年』と

日本文化紹介『折り紙を折ろう』の実施

PM 日本語クラスの生徒やホストファミリーとの自由時間



日本語クラスの生徒さんと

4日目：3月18日(日)

ホストファミリーとの自由時間 ドイツにとどまらず、フランスやルクセンブルクなども訪問

5日目：3月19日(月)

各ホスト校訪問 ドイツの高校生活を体験



ザールブリュッケン市内散策

6日目：3月20日(火)

AM ホストファミリーとのお別れ、フランクフルトへ

13:25 フランクフルト国際空港 出発

7日目：3月21日(水)

8:35 関西国際空港着・解散

フランスとの国境にて



研修を通して：

● 国境の概念、違いに触れる

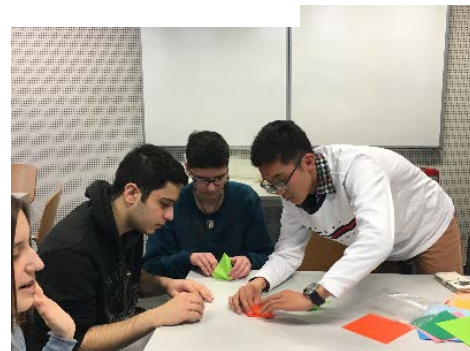
ザールラント州はフランスとルクセンブルクと国境を接する州である。道を車で通っていても、気づくと標識がフランス語になっており、「そういえばさっき国境を通ったよ。」などと言われることがたびたびある。また、ドイツ語に加えて英語、フランス語も流暢に話す人が多いため、「フランスに行ったら、ホストマザーがいきなりフランス語でお店の人と話し始めたからびっくりした。」や「フランスからドイツに通勤している人が普通にいる。毎日違う国で働いていることに驚いた。」という声が聞かれた。また、生徒がお世話になった学校にも大抵数人はシリアからの難民の子供たちが通学していた。「ドイツ シリア難民受入」という遠い国の出来事ではなかったことを目で見て感じる機会となった。「国」とは何なのか、「Border」とは何なのか、日本とは違うドイツの様子に生徒は多くのことを考えるきっかけを与えてもらった。

● 人との交流・暖かい歓迎

各ホストファミリー宅では想像以上に温かい歓迎を受け、学校訪問でも多くの生徒から話しかけてもらっていた。16日の歓迎会には、ザールラント州教育省、フランクフルト日本総領事館からも出席していただいた。現地からのリクエストで岸高校歌を、そしてドイツ文化への敬意と今回の受入の感謝を込めて「歓喜の歌」をドイツ語で歌った。「歓喜の歌」はドイツの方も合唱に加わって下さり、とても良いひと時となった。ザールラントで出会った人々は皆驚くほど親日的で、我々の国や文化に敬意を払ってくれていた。特に日本語を学ぶ学生との交流では、「日本語の音の響きはとてもきれいなね。」など我々が普段思えない日本や日本語の魅力をおしえてくれた。日本の外から日本の魅力を知る機会となった。

● 英語で発信する機会

17日の日本語クラスでの交流にて、岸高の1日と1年間の行事を紹介するプレゼンテーションを行った。日本の食事や学校生活の紹介をし、質問も英語で受けた。また、プレゼンテーション等にとどまらず、生徒はホストファミリーからも学校で出会った生徒からも英語で様々な日本のことを質問されていた。生徒自身にも課題として自分で決めたテーマについて、ドイツでインタビューをすることになっていたため、積極的に話しかけたようである。ドイツの特に若い人は非常に流暢に英語を話す、それでもネイティブスピーカーではないため、お互いわかりやすい単語を使用してコミュニケーションをとっていた。お互い助け合いながら意思疎通を図っている様子が多く見受けられ、英語でコミュニケーションを図る機会としても今回の研修は大変意義深いものであった。



折り紙の紹介



ホストファミリーとのお別れ